

未来につなぐ上下水道

～上下水道の耐震化対策・老朽化対策～

令和6年1月に発生した能登半島地震による上下水道への大きな被害や、令和7年1月に埼玉県八潮市で起こった道路の陥没事故を受けて、上下水道に関する施設や管路の耐震化対策・老朽化対策が全国的に大きな課題となっています。

今回の特集では、久留米市における耐震化対策・老朽化対策について紹介します。



上下水道の管路の現状

久留米市の水道事業は、昭和5年1月に給水を開始し、北野地域（三井水道企業団からの給水エリア）と山間部を除くと、普及率は96.7%、管路の総延長は1,420kmです。*

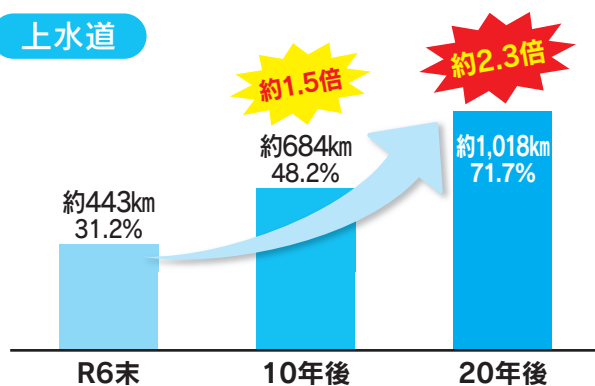
また、公共下水道事業は、汚水と雨水を分けて処理する「分流式」として、昭和47年度に供用を開始し、人口普及率は88.4%、管路の総延長は1,414kmです。*

久留米市の上下水道管路の多くは昭和40年代以降に整備しており、今後計画的に更新を行わなければ、法定耐用年数（水道管：40年、下水道管：50年）を超える管路の割合が急激に増加してしまいます。

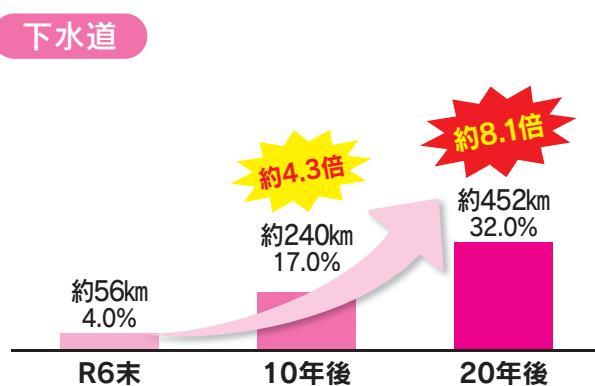
※令和6年度末時点

計画的に更新をしなかった場合に法定耐用年数を超える管路の割合

上水道



下水道



上下水道施設の耐震化対策

令和6年能登半島地震では、能登地域の上下水道施設に甚大な被害が生じました。

これを受け、国は浄水場や下水処理場など、その施設が機能を失うと上下水道全体が機能なくなる施設や避難所などに接続している管路について、耐震化対策を計画的・重点的に進めるよう要請しています。

久留米市でも各施設の耐震化に向けて計画的に取り組んでいきます。



令和6年能登半島地震にて隆起したマンホール

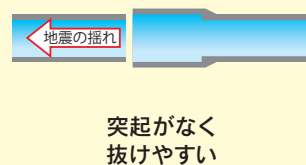
管路の耐震化対策・老朽化対策

上水道

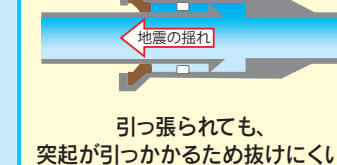
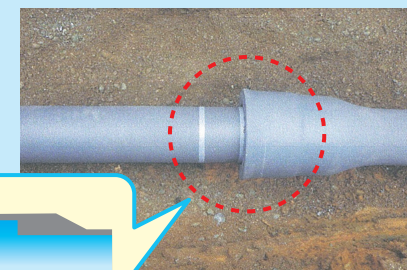
古くなった水道管は、状態によって漏水が発生し、道路の陥没を引き起こす可能性があります。このような事故を防ぐため、日頃から管路の点検を行うとともに計画的な更新工事を行っています。

水道管の更新工事の際には、従来の管よりも強度が高く、つなぎ目が伸縮して抜けにくい構造の耐震管を採用し、老朽化対策とともに耐震化対策にも力を入れています。

従来の管



耐震管



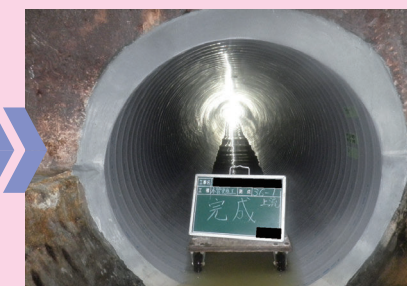
下水道

下水道管は、腐食が進みやすい場所や老朽化の程度を考慮し、計画的に点検を行っています。この点検結果に加え、工事に係る費用や期間等を考慮したうえで管路更新の優先順位を決定し、「管更生（管内の補強）」や「管更新（管路の入れ替え）」などの老朽化対策、マンホール浮上対策などの耐震化対策を行っています。

管更生（管内の補強）による管路更新の様子



【更新（補強）前】



【更新（補強）後】

管更生は、老朽化した下水道管を内側から修復する工事です。道路を掘り起こさずに施工できるため、工期や費用を抑えられ、周辺環境への影響も少ないのが特徴です。



久留米市上下水道部からのお願い

市民のみなさまからの通報が、道路の陥没や漏水の早期発見・修繕につながります。もし、上下水道のマンホール蓋のぐらつきや、道路上に水が漏れているのを見つけた場合は、上下水道部にお知らせください。ご協力をお願いします。

☎ 上水道整備課

TEL:30-8525 FAX:38-2694

☎ 下水道整備課

TEL:30-9079 FAX:38-2694

夜間・休日・祝日の連絡先 TEL:30-8500(月～金)17:15～翌朝8:30 (土・日・祝日・年末年始)24時間受付